

# 令和4年度 地域発達障害対応力向上研修会～困難事例に関する研修～

令和4年12月21日 講師：立教大学 大石幸二氏

## I,発達障害への対応～社会資源の活用と開発～

### 事例を通して

5人家族（父母と兄弟3人）で全員に何らかの支援が必要。親族からの支援をもらうことが難しいケース

連携の必要性－1つの機関では解決が困難な場合、関係機関が相互のつながりを持ち課題を解決していく。

各機関が「出来る事は何か」を考える。

- ①無理なくできる事
- ②やればできそうなこと→ここを探ること！！
- ③無理をすればできるかもしれないこと（そして続けられること）
- ④無理してもできないこと（あるいはきっと続けられないこと）



複数の機関が関わることで、それぞれの「今」必要なことと「将来」必要なことが明確になる。

チームについて：特別支援・精神保健・障害福祉・児童福祉・母子保健

→ 家庭の課題は子供の育ちに影響する

## II,施設内チーム対応力の向上を目指して～不適切行動の動機づけチェックリスト～

### 事例を通して

知的障害者入所更生施設に入所中の27歳の男性で、常同行動・自傷・癩癩がある。

ポイント①客観的な記録の作成と導入

②チームアプローチの専門性

展開①対象者の問題状況を記録に基づき整理する

②職員間の相互理解度や協力度を評価する

③施設内モデル事例検討会を定期開催する

※モチベーション アセスメント スケール (MAS) の紹介

16の設問に答える→問題行動を4つの項目で捉え、原因を推測

①感覚 ②逃避 ③社会的注目（人とつきあいたい） ④明確な要求  
（←低 社会的行動 高→）